

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) 医療経営管理能力検定テキスト(2019年度)	共著	平成 30 年 4 月	公益社団法人日本 医療経営コンサルタント協会	昨今の医療施設は経営が困難となっている。その原因には医師・看護師不足、労働環境などの問題などがある。本テキストは、医療施設で活躍できる人材を育成するために医療・医療制度・政策、地域医療計画・地域介護計画、財務管理、人事労務管理、経営管理の視点から、基礎力を身に付けるための教材である。 (総ページ数:247頁) 担当部分の概要:日本における医療の現状、医療施設及び医療費について言及している。また、医療経営を知る上で必要な医療経営史についても述べている。 (担当ページ:pp.10～78)
2 (学術論文) 地域包括ケアシステムを支える中核病院の業務手順に関する研究 -安芸太田町加計病院を事例として- 《筆頭論文》	単著	平成 18 年 3 月	広島国際大学大 学院修士論文	論文全体の概要: 地域包括ケアを実践する地域における中核病院の業務手順についての研究。研究方法は、病院内の全ての伝票調査により、医療情報の伝達経路、内容を確認し、情報伝達に付随する業務の内容を確認した。加えて、現行業務の手順を UML のアクティビティ図を用いてシミュレーションを行い、業務の変更を行ったものである。 (当該論文のページ数:221 頁)
3 (学術論文) ICTを利用した在宅医療推進のためのコミュニケーション支援の構築 -安芸太田町における訪問看護を事例として- 《筆頭論文》	単著	平成 26 年 7 月	一般社団法人 日本医療福祉設備協会 協会誌 『病院設備』	訪問看護への ICT の導入とは、タブレット端末を用いて、看護師の業務負担軽減と在宅医療の質向上を目的としている。導入経費を抑えることを前提に ICT の導入を検討した。紙運用時の訪問看護の手順について検討し、看護師が訪問看護時に持ち出している情報を確認する。次いで、必要とされる情報が、電子カルテ上のどの情報であるか確認する。そして、必要とされる情報を電子カルテから抽出し、タブレット端末とのデータ連携手段を検討するというシンプルな運用を想定した。在宅医療における ICT に期待できることは情報の共有、災害時の住民安否に利用などが想定できた。しかし、費用対効果および個人情報の取り扱いが課題だといえる。(当該論文のページ数:P. 4 頁)
4 (国内学会発表) ICTを利用した在宅医療推進のためのコミュニケーション支援の構築	共著	平成 27 年 9 月	第 41 回日本診療 情報管理学会学 術大会	I C T を用いて、医療提供体制を病院内から在宅医療の推進を図ることを目的として、在宅医療コミュニケーション支援の構築を試みた。ヒアリングの結果、必要な記載項目として、日時、回数、体温、呼吸等があげられた。業務の問題点として院内電子カルテに訪問看護師は常時記載していなかった。その結果、医師が訪問看護指示を行う際に、情報確認に時間を要していた。しかし、電子カルテで実行可能なテンプレートを作成、入力することで情報共有を実現できた。 記載場所を一元化し、在宅訪問時に情報をタブレット端末で確認することで、担当者が変更した場合でも対応可能だと評価できた。 本研究における運用を行うことで容易に導入は可能である。(当該発表のページ数:P. 1 頁)